



9月使い

8月のお便りは、いつもお盆のお話が多かったから、毎年少しずつ変化させて、お話ししてきました。と言いながら結局は同じようなお話をしてしまったようで反省しています。7月は古関裕而さんのお話をしながら、脱線したようですね。普段の生活の中で、常に音楽がある私も、テレビを見る時には昭和の歌がどのようにして生まれ流ったのか？平成、令和になり、どのように傾向が変わったのか？すべてが勉強になりますから、録画をしながら、そうか、そうだったのかと知識を仕入れています。古関さんの歌は行進曲が多いとお話しましたが、行進曲は長調で作られます。それ以外の歌、「鐘の鳴る丘」は東京大空襲で孤児になった子供たちの悲しい歌を、わざと長調で作られています。悲しい歌を長調で、また逆に戦時中にお作りになった「露営の歌」勝ってくるぞと勇ましく・・・とか、「暁に祈る」あああの顔であの声で・・・これらは戦時歌謡と言われ、いわゆる軍歌とは少し異なるようですが、軍

部から言われて、戦争を美化するような歌とは少し違っていたようです。戦時歌謡とはネットで検索すると、軍歌の枠組みを根底に幅広く捉えた流行歌の総称と言われます。こう言う皆さんには、分かりにくいかもしれませんが、行進曲がお得意の古関さんには意外にも短調で作曲されているのです。私が音楽の時間に、よくお話するのですが、曲には長調と短調があり、短調は3度と7度がフラット、つまり半音下がっている。これは長調に比べて、ちょっと寂しい、もの悲しい旋律になります。つまり古関先生は、「露営の歌」「暁に祈る」を短調で作曲されているのです。私は、軍歌は歌いませんといいました。その意味ではこれらの戦時歌謡も同様に捉え今まで一切歌いませんでした。これからもあまり歌いたくはありませんが、これらの短調で作られた歌は、おそらく歌えば涙無くして歌えないほど悲しい歌だと思えます。日露戦争のころに作られた「戦友」ここはお国を何百里離れて遠き満州の赤い夕陽に照らされて・・・これなども、軍歌と言われますが、やはり作った先生、真下飛泉(ましもひせん)

令和2年9月おもしろ記念日

9月の誕生石は【サファイア】

1 (火)	防災の日	
2 (水)	宝くじの日	
3 (木)	ホームラン記念日	
4 (金)	くしの日	
5 (土)	石炭の日	
6 (日)	妹の日	
7 (月)	吉川英治忌	
8 (火)	聖母マリア祝日	
9 (水)	重陽の節句	
10 (木)	下水道の日	
11 (金)	公衆電話の日	
12 (土)	宇宙の日	
13 (日)	世界の法の日	
14 (月)	コスモスの日	
15 (火)	スカウトの日	
16 (水)	競馬の日	
17 (木)	牧水忌	
18 (金)	かいわれ大根の日	

作詞、三善和氣作曲は短調で作られ、戦友が目の前で倒れ、それでも 突撃を強いられ、戻って来た時には、冷たくなった戦友を思い涙にくれる歌です。戦争を知らない私でも、こういう歌は涙にくれてとても歌えませんし、歌いたくありません。それでも、作られた先生方の思いは、如何ばかりだったでしょう。暗い時代は二度と来ないことを願ってやみません。

19 (土)	子規忌	
20 (日)	バスの日	
21 (月)	ファッションショーの日 敬老の日	
22 (火)	カーフリーデー 秋分の日	
23 (水)	万年筆の日	
24 (木)	清掃の日	
25 (金)	藤ノ木古墳記念日	
26 (土)	台風襲来の日	
27 (日)	女性ドライバーの日	
28 (月)	パソコン記念日	
29 (火)	招き猫の日	
30 (水)	くるみの日	